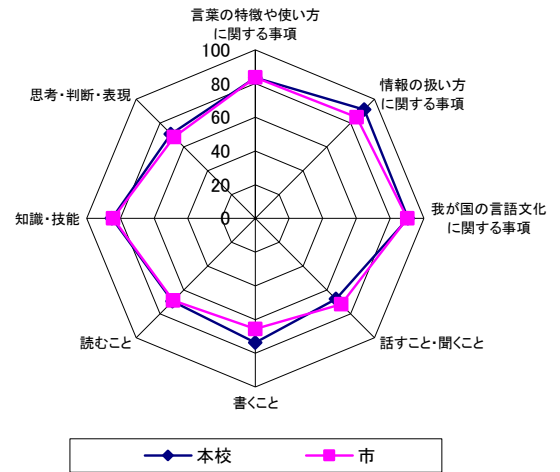


# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.5	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	91.3	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	90.6	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	67.6	72.1	67.8
	書くこと	73.7	65.5	51.8
	読むこと	69.4	68.9	57.8
観点別	知識・技能	85.0	84.4	80.5
	思考・判断・表現	70.8	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

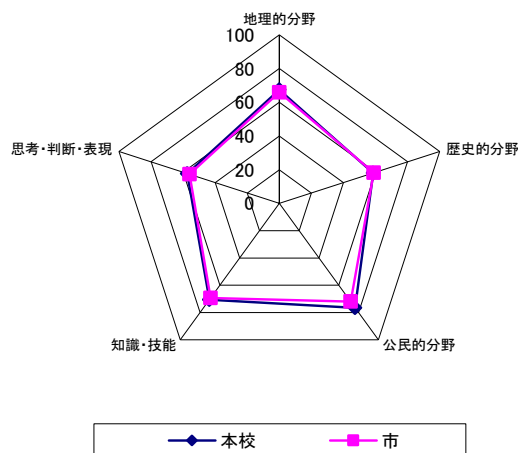
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>正答率は市を0.1ポイント下回っている。</p> <p>○漢字の読み書きに関する問題は、ほとんどの問題で市の平均を上回った。</p> <p>●類義語に関する問題は、市の平均を7ポイント下回っている。</p> <p>●故事成語に関する問題は、市の平均を1.1ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・漢字の読み書きについては、小テストを定期的実施するとともに、小学校での既習事項についても復習する機会を設けるなど継続して指導する。</p> <p>・語句の学習では、意味調べをする活動を取り入れ、正確な漢字や語句を日常的に使えるようにする。</p> <p>・読書活動の推進や、類義語・対義語を調べる活動等を通して、語彙力を増やしていく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>正答率は市を6.3ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報との関係の様々な表し方を理解しているかを問う問題は、市の平均を6.3ポイント上回っている。</p>	<p>・文章内にある、いくつかの情報を整理し、情報同士がどのように結びついているかを、図や表にまとめる活動を授業の中に取り入れていく。</p> <p>・複数の資料を比較し、資料から読み取れることを文章にする学習活動を取り入れる。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>正答率は市を0.4ポイント上回っている。</p> <p>○現代語を手掛かりに古典を読む問題では、市の平均を0.4ポイント上回っている。</p>	<p>・古文と現代語訳を照らし合わせながら、古文の理解や内容の読み取りをする問題を取り入れる。</p> <p>・歴史的仮名遣いに関しては、漢字学習と同じように小テストを行い、知識の定着を図る。</p>
話すこと・聞くこと	<p>正答率は市より4.5ポイント下回っている。</p> <p>○「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。」では、正答率が全国よりも高く、理解はできている。</p> <p>●「自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話している。」が市と全国と比べて低いことから、自分の立場を明らかにすることがあいまいな傾向にある。</p>	<p>・正答率は全体的に高いので、ディベートなど議論の話合い活動も必要だと考える。聞くことはできているため、話を総括し、どのような結論が出たかなどをまとめさせる指導が必要である。</p>
書くこと	<p>正答率は市より8.2ポイント上回っている。</p> <p>○情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使っていたり、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしたりすることができている。</p> <p>●指定された事柄に対して自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書く力が52.9%と極端に低い。</p>	<p>・読み取った内容を要約することを授業内で行う。</p> <p>・書き方の技能(字数指定、段落構成など)を引き続き行っていく。</p> <p>・作文を授業内で行い、上段の「自分の考えを明確にする」を指導していく。</p>
読むこと	<p>正答率は市より0.5ポイント上回っている。</p> <p>○論理の展開の仕方、文章の表現の仕方はできている。</p> <p>●「文章の構成や論理の展開について評価している」「物語の展開の仕方を捉えている」「物語の展開の仕方を捉えている」が市より下回っている。</p>	<p>・説明文において接続語のつながりや段落構成を考えさせる指導を行う。</p> <p>・物語を場面ごとに区切って考えを深めさせる。</p>

# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	67.4	66.0	57.8
	歴史的分野	58.5	58.9	51.4
	公民的分野	76.6	72.0	72.2
観点別	知識・技能	70.5	69.3	62.9
	思考・判断・表現	57.4	56.0	49.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

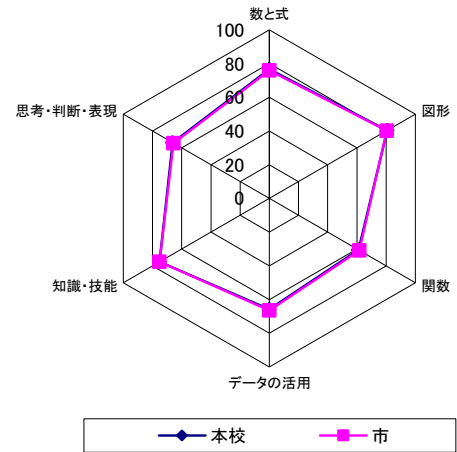
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	正答率は市を1.4ポイント上回っている。 ○海洋の分布や日本の地形の特色、緯・経線など、地図や地形に関する問題はいずれも正答率が80%を越え、市を上回った。 ○日本の農業の特色について資料を読み取る問題では、市を8.0ポイント上回った。 ●日本の気候の特色について理解する問題では、市を2.0ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・課題解決学習の際、1人1台端末を効果的に活用し、多くの情報から必要な情報を適切に選択して、考察したりまとめて表現したりする活動を多く取り入れる。 ・日本の気候の特色を、周りの海洋や大陸などの地形的要因からも鳥瞰することができるように、ICT機器を効果的に活用した学習活動を工夫する。 ・複数の資料から考えをまとめる時間を授業中に設定し、資料分析の力を身に付けさせる。
歴史的分野	正答率は市を0.4ポイント下回っている。 ○竪穴住居や徴兵令などの用語理解の問題は、市を4ポイント程度上回った。 ●江戸時代の問題では、正答率が5問のうち3問が市を下回っている。 ●中国文明の発展について考察する問題は市を5.7ポイント下回っている。	・中世→近世→近代の流れの中でそれぞれの時代の特徴が明確に理解できるよう、「宇都宮学」や地域の歴史について触れる学習を取り入れる。 ・ICT機器を活用して、視聴覚的な資料をとり入れて、資料から読み取れることを文章にする学習活動を行う。
公民的分野	正答率は市を4.6ポイント上回っている。 ○「公共の福祉」について、資料をもとに自分の言葉で表現する問題では、市を18.3ポイント上回った。 ○「憲法改正の手続き」について理解する問題では、市を4.5ポイント上回った。 ●「新しい人権」について理解する問題では、市を1.7ポイント下回った。	・「人間の尊重と日本国憲法」では、日本国憲法の基本原理を理解するだけではなく、日常生活のさまざまな場面で憲法が関係していることに気付かせ、追究させる学習活動を工夫する。 ・ICT機器を活用し、メディアリテラシーの面からも適切な資料を選択し、分析した結果を授業の振り返りで発表する活動を取り入れる。

# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.7	76.0	69.0
	図形	80.7	80.5	67.7
	関数	61.0	61.6	55.0
	データの活用	65.8	66.5	56.4
観点別	知識・技能	75.2	75.1	69.4
	思考・判断・表現	66.1	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

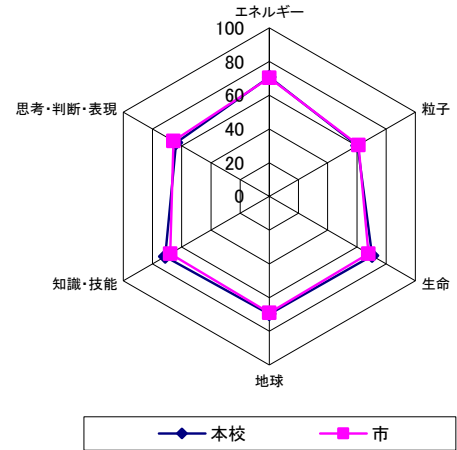
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>正答率は、市を0.7ポイント上回っている。</p> <p>○式の計算に関する問題は、すべての問題で市を上回っている。</p> <p>○囲んだ数の和が5の倍数であることを説明する記述の問題で市を上回っている。</p> <p>●方程式や平方根に関する問題では、ほとんどの問題で市を下回っている。特に連立方程式の立式の問題では、市を10.0ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な計算力を高めるため、朝の読書の時間や授業の最初に計算の復習問題を解く時間を設定する。</li> <li>自分の考えを数学的な用語を用いて表現するなど、記述問題を授業の中で積極的に取り入れる。</li> <li>引き続き習熟度別学習を取り入れ、基礎・基本の確実な習得を図る。</li> </ul>
図形	<p>正答率は、市を0.2ポイント上回っている。</p> <p>○おうぎ形の面積を求める問題では、市を7.5ポイント上回っている。</p> <p>○補助線をひいて平行線と錯角の関係を利用して角の大きさを求める問題では、市を5.1ポイント上回っている。</p> <p>●ねじれの位置や証明の合同条件の問題など、ほとんどの問題で市を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>模型を使って図形を確認させたり、ICTを活用して図形を自ら動かしてみたりするなど、図形に対して多面的な見方が身に付くよう指導の工夫をする。</li> <li>生徒の習熟度によって取り組む問題を変更し、個に応じて主体的に学べる場面を設定して活用する力を育む。</li> </ul>
関数	<p>正答率は、市を0.6ポイント下回っている。</p> <p>○反比例の関係とその式についての問題で、市を6.7ポイント上回っている。</p> <p>○2乗に比例する関数の式を立式する問題では、市を5.5ポイント上回っている。</p> <p>●増加量を求める問題では、市を9.9ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の導入で、既習の学習内容を復習し、学びのつながりを想起させる。</li> <li>関数関係の言葉の意味を丁寧に確認する。</li> <li>表と式とグラフの相互の関係性を授業内でしっかりと確認し、関数の概念を獲得できるようにする。</li> <li>日常生活と関連付けた内容の学習活動を取り入れるなど、主体的に問題に取り組める場面を設定し、グラフの書き方や式の求め方を考えさせる。</li> </ul>
データの活用	<p>正答率は、市を0.7ポイント下回っている。</p> <p>○確率や四分位範囲を求める問題では、市の正答率と同程度である。</p> <p>●箱ひげ図から示された主張ができる理由を説明する記述の問題では、市を2.4ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや箱ひげ図の特徴から読み取れる状況を説明し合う学習活動を取り入れる。</li> <li>身近な資料を用いた教材を用いて、ヒストグラムや箱ひげ図を作成し、分析する学習活動を取り入れることで、学習内容の定着を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	70.8	70.3	59.4
	粒子	60.4	61.1	56.4
	生命	70.4	67.9	62.7
	地球	69.8	69.1	65.6
観点別	知識・技能	71.3	67.9	63.8
	思考・判断・表現	63.9	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

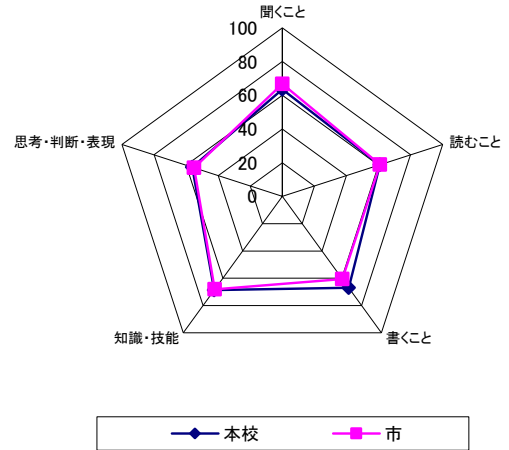
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>正答率は市平均を0.5ポイント上回った。</p> <p>○光について日常に使われているものを科学的に説明する問題では全国平均を24.1ポイント上回った。</p> <p>○電流のはたらきについて、印刷機など身の回りのものを科学的に説明する問題では全国平均を13.2ポイント上回った。</p> <p>●電流について、科学的な思考を問う問題では市、全国平均を上回ったものの、正答率が低くなった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、身近な課題を班で検討し、説明する場面があるので、思考力・表現力が身に付いている。</li> <li>・科学的な思考の正答率が低かったことから、じっくりと課題と向き合う時間が必要である。</li> </ul>
粒子	<p>正答率は市平均を0.7ポイント下回った。</p> <p>○化学変化の前後で変化するもの問題では市平均を6.5ポイント、全国平均を20.8ポイント上回った。</p> <p>○実験を効率よく進める工夫を説明する問題では市平均を8.6ポイント、全国平均を17.1ポイント上回った。</p> <p>●質量パーセントを求める問題では、市平均を5.6ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算問題に対して抵抗感のある生徒も多いが、グループで教え合いながら取り組んでおり、全体として実力が向上している。</li> <li>・見通しをもって実験するために、実験計画や振り返りといった活動によって理解を深めている生徒が多い。</li> <li>・基本的な計算を一人でじっくりと考える時間が必要である。</li> </ul>
生命	<p>正答率は市平均を3.5ポイント上回った。</p> <p>○生物の骨格に関する問題では市平均を4.7ポイント、全国平均を19.4ポイント上回った。</p> <p>○植物の体のつくりの問題では、市平均を8.8ポイント、全国平均を15.0ポイント上回った。</p> <p>●孫の代の遺伝子の組合せを考える問題では、市平均を8.6ポイント、全国平均を6.5ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識の習得のため、継続して問題演習に繰り返し取り組み、定着を図る。</li> <li>・植物の遺伝の組合せについて考える機会を増やし、計算の仕方についても確認して進めていく。</li> </ul>
地球	<p>正答率は市平均を0.7ポイント上回った。</p> <p>○等圧線から気圧の様子を考える問題では、市平均を10.2ポイント、全国平均を7.5ポイント上回った。</p> <p>○震度の大きさと震源からの距離の関係についての問題では、市平均を2.3ポイント、全国平均を10.1ポイント上回った。</p> <p>●大気圧に関する問題では市平均を5.2ポイント、全国平均を4ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気図を見て、天気の変化を予測する学習を行っており、等圧線やその後の動き方について、理解が深まった。</li> <li>・大気圧に関して、風の吹き方や天気の変化、単位など基本的な内容を繰り返し問題演習する必要がある。</li> </ul>

# 宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	63.6	66.8	61.5
	読むこと	60.8	60.9	55.5
	書くこと	67.1	60.5	50.9
観点別	知識・技能	68.6	68.1	64.1
	思考・判断・表現	56.2	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>正答率は市を3.2ポイント下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○英文の全体的な内容を捉える問題はできている。</li> <li>○長めの英文の聞き取りでは、内容を理解することにとどまり、文の流れや質問で聞かれているポイントを聞き取れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスニングにおいては対話文、長文、イラスト問題など、多様な問題に触れ、英語に慣れさせる。</li> <li>・問題による解き方や、聞き終わった後の聞き直し等で要点を改めて理解する。</li> <li>・聞き取れなかった英語の発音や音の繋がりを説明する。</li> </ul>
読むこと	<p>正答率は市を0.1ポイント下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料問題では、英文の内容を読み取り、適切なグラフやイラストを選んでいる。</li> <li>○英文の内容理解ができている。語句や文法が身に付いている人が多い。</li> <li>●英文の内容を理解した上で、そこから考えられること等といった思考する力が足りていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英文読解に必要な文法や語句を身に付ける指導を行う。</li> <li>・短文読解を通して、英文を読みことへの抵抗感を減らす。</li> <li>・思考を伴う問題では、何を根拠にどう考えるのかのヒントを出しながら、生徒同士の交流も含め、様々な考えに触れさせる機会を与える。</li> </ul>
書くこと	<p>正答率は市を6.6ポイント上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての項目について市を上回っている。</li> <li>○文法や表現に縛られず、素直に自分の言いたいことを表現できている。</li> <li>○理由や根拠を自分の言葉で相手に伝えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や定期テスト等での英作文の活動を継続させる。</li> <li>・正しい文法や難しい単語を使わずに、シンプルな英語で言いたいことを素直に表現させ、書く抵抗を減らす。</li> <li>・多くの人の英文に触れ、書き方の工夫や表現を共有することで正しく書く力を養う。</li> </ul>

## 宇都宮市立瑞穂野中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習ノートの活用（学習習慣の定着と、家庭学習の充実を目指して）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は、毎日1ページ以上を目安として自主学習ノートを活用する。</li> <li>・学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、自主学習提出率優秀クラスの発表を行う。</li> <li>・定期テスト対策問題を学芸委員が作成して配付し、生徒の学習意欲向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習提出率は、全学級が90%を大きく上回った。「ふだん、学校の授業以外にどれくらい学習しているか」の「①学校の授業がある日」「②学校が休みの日」の両項目とも、1時間程度の生徒が最も多く、2時間30分くらいまでの回答枠に約7割程度の回答がある。自主学習ノートを活用した家庭での学習習慣は概ね身に付いていることが分かる。【ウ 学習の仕方について】「③授業で習ったことを、分かりやすくノートなどにまとめている」「学習について分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげることができる」の両項目では、肯定割合が昨年より大きく向上した。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮モデル「じっくり」の充実</li> <li>・「生徒自身の言葉で論述させる振り返り」</li> <li>・1人1台端末を活用して自分の考えをまとめて表現したり、説明したりする活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人、集団の思考を深める「発言への問い返し」</li> <li>・表現の幅を広げ、対話的な学びを促進する「つなぎ言葉の指導」</li> <li>・授業目標（ねらい）の明示の継続</li> <li>・振り返る活動の充実</li> <li>・研究授業を通しての授業改善</li> <li>・ミニ研究授業 等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」の肯定割合が市より上回っている。授業中に学び合い活動を積極的に取り入れた成果であると考えられる。今後もその力を向上させていくために、授業の発問を工夫するなどして学び合い活動を進めていく。</li> <li>・振り返りや思考の過程、課題解決の過程などを自分の言葉で「書く」ことを大切に、ワークシートやICT機器を用いて、発表・情報共有を行う活動に継続して取り組んでいく。また、生徒相互の気付きにも注目し、主体的・対話的な深い学びが展開できるように工夫していく。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査においては、ほとんどの教科・領域で正答率が市平均と同等程度またはそれを上回り概ね良好である。しかし、【エ 家庭での学習について】「③授業で習ったことをその日のうちに復習している」「④自分で計画を立ててから学習に取り組んでいる」の両項目では、「あまりあてはまらない」と答えた割合が4割前後であった。今後は学力向上を目標として、自主学習の計画の立て方や内容充実に向けた指導を工夫をしていく。</li> <li>・「授業の始まりには席についている」生徒がほとんどで、授業に臨む姿勢が整っている。また、【イ 学習に対する気持ちや態度】の5項目はすべて市より肯定割合が高い。「将来」に関する2項目「②将来の進路や職業についての希望をもって学習している」、「④学習して身に付けた知識は、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と、「現在」に関する3項目「①学習に対して自分から進んで取り組んでいる」「③学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「④学習して分かったりできるようになったりすることがうれしい」が連鎖し合ったと考えられる。今後も「分かる授業」「学びの有用性」が実感できる授業に取り組んでいく。</li> <li>・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」については、市より肯定割合が10ポイント以上、同じく昨年度より10ポイント以上上回った。今後も「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、学習課題の提示、中心的な学習活動や活動に適した学習形態の工夫、活動を充実させる1人1台端末の活用、学習意欲を引き出す発問、思考を助ける板書、まとめや振り返りの場の設定など、「1単位時間の授業の質、単元ごとの学習のつながりが感じられる授業の質」を向上させていきたい。</li> </ul>
---